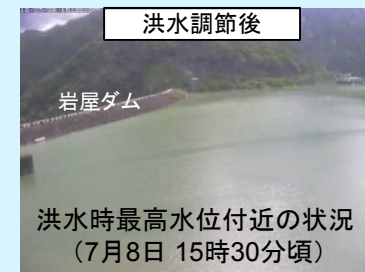
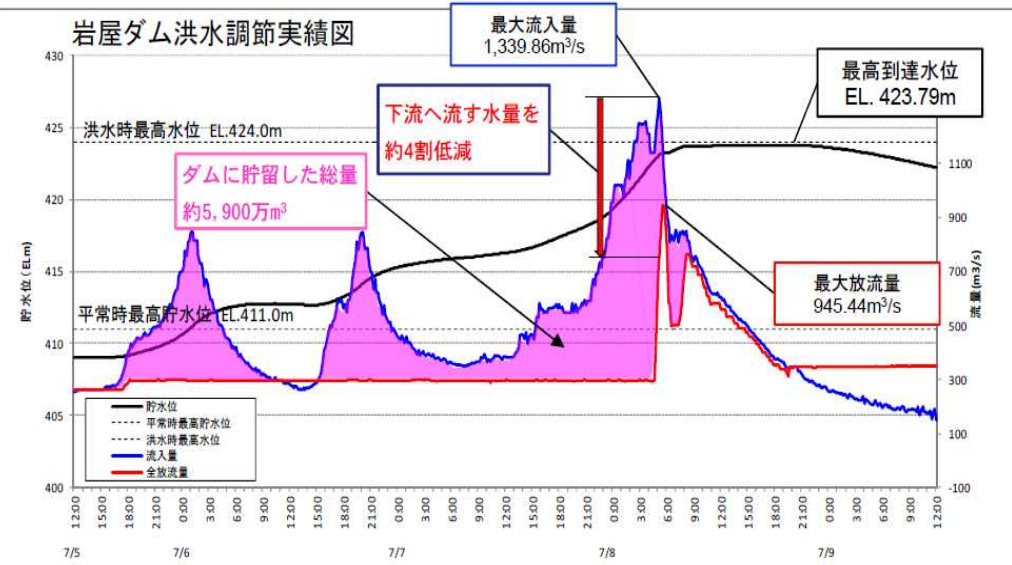
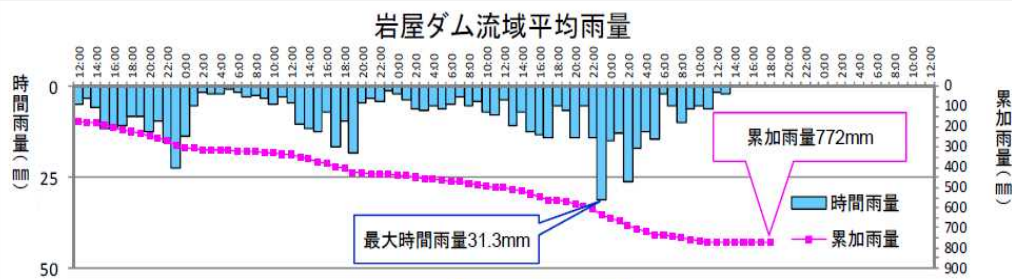


# 平成30年7月豪雨における岩屋ダムの洪水調節効果について

- 活発な梅雨前線の影響により、まとまった降雨が断続的に発生。
- 岩屋ダム流域における7月4日0時～7月8日13時までの累加雨量は**772mm**に達する観測史上最大の豪雨となった。  
(過去最大は、平成11年9月の532mm)
- この降雨により、岩屋ダムへの最大流入量は管理開始以降2番目となる毎秒**約1,340立方メートル**に達した。(過去最大は、平成16年10月の毎秒1,449立方メートル)
- 岩屋ダムでは洪水調節を4回実施し、**約5,900万立方メートル**の貯留を行い、そのうち、最大流入量付近では約4割にあたる水量を貯留し、下流への放水量を低減することによりダム下流の馬瀬川(東沓部地点)の水位を約1.0m低下させた。



■岩屋ダムによる馬瀬川(東沓部地点)の水位低減効果 (7月8日5:10時点:推定)

